（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和５年度 学校自己評価システムシート（県立妻沼高等学校）

目指す学校像	母校を誇れる生徒を育てる学校

重点目標	
	１　「学び直しから大学進学まで」を保障するため、分かりやすい授業・伸ばす授業を実践する。 ２　「礼儀、身だしなみ、時間厳守」を指導の基本として、思いやりの心と規範意識を醸成する。 ３　計画的なキャリア教育等を実践し、進路知識を深めるとともに意識を高め、一人一人の進路を実現する。 ４　地域との連携を再開し、学校行事・生徒会活動・部活動等の活性化を図り、開かれた活力ある学校づくりを行う。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者		
	学校関係者	５　名
	生徒	３　名
	事務局(教職員)	６　名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（２月１日 現在）			実施日　令和　６年　２月　８日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 学業にしっかり取り組む生徒や生活習慣の確立された生徒などと課題を抱えた生徒との二極化が進んでいる。学校全体では、落ち着きある状況となっている。 【課題】 ・生徒間や教員と意思伝達を含めたコミュニケーション力の向上が課題となる。 ・提出物や課題など、対応する意識が低くなっている。 ・コロナ禍の授業保障から、順次の基本方針を組み、移行する計画が必要である。	・学び直しや学力の定着を目指した教育活動を推進する。 ・生徒への支援体制を継続する。	①ＣＴの充実・発展 ②学びの基礎診断の活用 ③授業時間の確保 ④安全管理・安全維持 ⑤提出物等への意識改革と取組 ⑥言語活動の充実	①ＣＴ研修会（年間2回以上）を実施する。また、ＣＴ委員会を随時開催する。（毎月） ②学びの基礎診断の実施、分析、活用を図る。 ③学校教育活動を戻すように対応を進める。 ④校内環境の整備と維持を図る。 ⑤提出物などの対応と意識の醸成をする。 ⑥生徒の発表や発言を行う場の増加と意識改革を図る。	平常の状況を取り戻すため、校内体制と外部関係組織との連携を図った。 ①ＣＴ研修会を計画して実施した。１回目：４月１１日実施 ②学びの基礎診断は、継続して実施され年間２回のテストの結果は学力向上を示した。１回目：４月　２回目：１１月（学年別実施） ③コロナ禍から平常の生活に移行した。行事の拡大を見ながら、校内での体制を再構築した。地域交流としての小学校訪問を９月１４日に実施した。 ④校内での学習環境を維持するため、各安全点検（各学期の定期、災害発生時の臨時、毎日行う随時）を実施した。瑕疵には即座に対応し、学習環境を維持した。各教室での転落防止対策（窓開閉制限措置）を施した。 ⑤提出物への対応は二極化している。即座に対応できる生徒へは質の向上を目指させ、提出物に対応できない生徒への工夫した対応が求められた。 ⑥生徒のコミュニケーション力の向上を目指し、文書まとめやＣＴにおける対策を繰り返し指導した。	B	【課題】 ・中途退学者や転学者の増加が止まらない。 ・コミュニケーション力の向上が望まれる。 ・ＣＴにおける採点ボランティアの確保が急務である。 【改善策】 ・生徒個人への対策（対応）のために、更なる情報共有が必要である。 ・場面に応じた対応力向上のため、スキルアップが望まれる。 ・ボランティアの確保に向け、継続した募集を行う。	・授業参観をしたが生徒の取組は意欲的だった。また、取り組んでいる授業については「やる気」を引き出していると思われる。 ・生徒は学校での指導を通して誇りが持てるのではないか。良い傾向である。 ・中学校長会で来校した際、学校紹介ビデオを拝見した。素晴らしい内容であった。 ・退学者の増加が目立つが、授業についていけていないようである。成績が上昇している生徒は授業についていけている、学校が合っている証拠である。
2	【現状】 生徒指導の件数については減少傾向であるが、内容の変化について対応を求められる。世情に合わせた新たな課題も見えてきた。 【課題】 ・予防的な生徒指導の継続と定着が必要である。 ・通信機器やSNSに対応する新たな課題への対応が求められている。 ・外部専門支援員等の連携と活用を図る。	・指導基本「礼儀・身だしなみ・時間厳守」について粘り強く指導し、予防的な生徒指導を実践する。 ・外部専門支援員等との連携を密にし、生徒支援を充実させる。	①全教職員による共通理解の定着と指導の実践 ②生徒対象の各講習会を実施 ③生徒情報の共有化 ④外部専門支援員等との連携充実	①各教職員による「礼儀・身だしなみ・時間厳守」を基本とした予防的指導の徹底を行う。 ②生徒への教育伝達項目として、教育活動の時間を確保し、生徒教職員共通の意識改革を図る。 ③様々な生徒情報の共有化を実施する。 ④外部専門支援員等との連携と有効的な活用を行う。	生徒の学校生活は安定している。生徒指導件数の減少とともに、効果的な指導場面の設定によって、学校生活は落ち着きを見せている。 ①教職員共通による「礼儀・身だしなみ・時間厳守」を繰り返し指導した。また、精神的な側面（正義感）の育成に取り組んだ。 ②生徒指導の充実を目指し、研修会を計画し実施した。研修会後にはアンケートを実施し内容の定着を図った。 ③スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや巡回支援員が勤務した際は担任等教職員へのフィードバックを行い、生徒情報の共有を図った。 ④外部専門支援員（年間勤務回数：スクールカウンセラー：２３回、スクールソーシャルワーカー：２３回、特別支援巡回支援員：６回、多文化共生日本語支援員：３２回、生活介助員：月から金まで毎日、就職支援アドバイザー：８回）の支援を受けるとともに、具体的な指導を繰り返し、情報の共有を図るとともに生徒の学校生活の充実に務めた。	B	【課題】 ・生徒の長期欠席が目立つ。 ・外部専門支援員への依存度が高まっている。 ・通信機器の発達やＳＮＳへの対応が遅れる傾向にある。 【改善策】 ・長期欠席者の欠席理由を分析し、的確な対策を講じる。 ・生徒出身中学校との連携を深め、情報収集を図る。 ・外部専門支援員との連携のあり方を研究し、より多くの成果を引き出す。 ・情報収集力を高め、機器に対応する。	・校舎内が整然としていて環境が整い、生徒たちが落ち着いて学校生活を送っている。 ・地域の学校などとの交流は素晴らしい。 ・生徒に対してのSCやSSWの活用が良い効果を与えているのではないか。良い取組である。生徒が学校に通う取組として成果が見られそうだ。 ・学校の姿は「保護者アンケート」が表している。今後とも注目が必要である。 ・アンケートについて、紙を使わなくなったのは良い傾向だと思う。 ・挨拶がきちんと出来ている。
3	【現状】 学校全体でのキャリア教育の成果としして、進路希望を概ね達成させることができた。半面、生徒自身の目的意識の低下が目立ってきている。 【課題】 ・入学当初から、計画的なキャリア教育に取り組む。 ・各学年における目的意識を持たせる進路指導を実践する。 ・生徒の意識向上を図る。	・将来の目標（職業）について展望を立てさせ、実現に向けた計画的な取り組みを展開させる。 ・生徒の意識改革を行い、自身の進路について正対させるように指導する。	①進路希望調査・実態の把握 ②キャリア教育の計画と実践 ③進路追跡調査・過去のデータ分析と対策 ④外部関係組織等との協力・連携 ⑤進路報告会の充実	①学年など時機に合わせたキャリア教育や進路指導を計画し実践していく。 ②各学年による進路希望達成の学習活動指導を行い、生徒自身の目的意識を明確にさせる。 ③在籍生徒への指導について効果的な指導の対策を講じる。 ④外部関係組織等やＰＴＡとの協力と連携を深め、生徒進路希望の達成に活用する。 ⑤進路達成学年から在校生に向けて行う「進路報告会」を充実させる。	卒業を踏まえた進路決定までの道のりは険しい。段階的な進路指導を実践することによって成果は見えている。 ①段階的なキャリア教育の実践　〈学年目標〉１年：職業・働くことを知る　２年：進路の方向性を定める　３年：進路決定 ②進路ガイダンスの計画と実施　〈学年実施〉１年：11/10 進路講話　２年：11/10 進路ガイダンス　３年：6/1 分野別進路ガイダンス ③「進路の手引き」に進路実績経験者からのアドバイスを掲載し、進路決定までの内容を在校生へ伝えた。 ④公共職業安定所の職員に来校いただき、生徒への面接指導を行った。また、就職支援アドバイザーにも面接指導を依頼した。進路希望者の決定率１００％を達成した。 ⑤進路報告会を充実させ、在校生へのアドバイスを伝えた。令和６年３月１６日に実施した。	A	【課題】 ・各学年ごとの進路指導成果が見えない。 ・就労に対する生徒の認知度合いが低い。 ・進路決定における目標の設定が曖昧な状況にある。 【改善策】 ・キャリア教育の再検討を行う。 ・キャリア教育の段階毎に成果を記録する。 ・進路に対する相談体制を強固なものとして意思決定を促す。	・入学当初から進路ガイダンスを行い高い就職率を維持しているのは、指導の成果と保護者の協力があってのことだと思う。 ・就職した先輩方の継続した取組が好循環につながっている。 ・配慮を要する生徒に光が当たるように指導をされている。妻沼高校は良い学校だとの評判を耳にする。 ・進路先について選択肢があるので、情報収集をまとめて実現するには、先生や親も含めて相談していくことが必要である。
4	【現状】 各部活動とも、コロナ禍における制約があるものの、現状を把握しながら部活動を行っている。また、地域との連携など希薄になっている交流活動についても順次回復させる。 【課題】 ・部活動へのさらなる加入と、目標設定による意欲の向上を目指す。 ・受検生の確保に努める。 ・情報提供を適宜行い、情報発信を維持する。	・部活動を通じて、豊かな人間性の育成に取り組む。 ・学校情報を適宜発信し、開かれた学校づくりを維持する。	①部活動の活性化 ②ＰＴＡ・後援会と連携した学校行事の実施 ③学校の情報発信 ④生徒募集の充実 ⑤近隣との地域交流	①各部活動への関心を高め、加入率を上昇させ、活動を活発化させる。 ②ＰＴＡ・後援会と連携した学校行事を実施し、充実させる。 ③学校から適宜情報発信を繰り返し、開かれた学校づくりを維持する。 ④教職員全員の協力により、工夫、改善した学校説明会を行い、受検生の確保に努める。 ⑤近隣の学校や地域での活動に関して、状況を的確に判断し、効果的、有効的な対応となるように取り組む。	活力溢れる学校を目指し、学校運営にあたった。充分な成果とともに、課題が見えた。 ①部活動生徒全員加入は達成できなかったが、入部状況は向上しつつある。部活動加入率：５７．７％ ②コロナ禍より平常時への移行段階にあり、ＰＴＡ・後援会と連携しつつ行事内容の検討を行い実践に結び付けた。文化祭の一部公開開催を実施した。 ③ＨＰの行事毎の発信を丁寧に続け、学校の状況を発信し続けた。 ④学校説明会に工夫（学校概要説明や体験授業）を加えた。反面、人数や申込期間の制限を行ったことによって希望者全員への対応ができなくなった反省も見られた。 ⑤地域活動や学校間交流に向けて再開を模索し、一部を実施した。学校内の体制整備が課題といえる。	B	【課題】 ・より充実した地域交流を行う。 ・部活動加入率の向上を図る。 ・効率の良い学校情報の発信を検討する。 【改善策】 ・現状より濃厚な地域交流を行うため、校内体制を変革する。 ・魅力溢れる部活動をどう構築するか対策と検討を重ねる。 ・多面的な分野から学校の情報発信を検討する。	・アンケート結果（生徒及び保護者）からもわかるように、学校の取組に対して肯定的である。 ・生徒会役員の学校に対する熱い想いが伝わってきた。 ・地域住民として妻沼高校の生徒と関わる機会が少ない。関われる機会が増えると良い。 ・生徒の状況について、昔はパワフルな者が多く、今は引きこもる傾向にある。自立支援の活動をする人が、学校に行けなくなった生徒を引き受け、状況を改善する対応をしている事例もあると聞いた。参考として聞いてもらいたい。